

2014 年度 通年・後期
「授業改善のための学生アンケート」 結果報告書

白百合女子大学

は じ め に

FD推進委員長 川中 信
(2014 年度)

2014 年度後期の最後に実施した授業アンケートについて、情報公開いたします。

<新しい取り組み>

2010 年度に始まったアンケート結果の公開は、2014 年度からは集計結果だけでなく、「みなさんの声に応えて」という担当教員からのメッセージが加わりました。自分が参加した授業に限らず目を通していただくと、授業と学生自身の学びの改善に役立つヒントがたくさん書かれています。所見票に回答をお寄せくださった先生方の教育に対する洞察とご努力に頭が下がる想いです。

「みなさんの声に応えて」という担当教員からのメッセージは、アンケートが教員評価ではなく、報告書冒頭に「実施目的」として掲げてあるとおり、授業内容や教授法の改善のためのものだということを思い出させてくれます。また適切なレベルできちんと教授できているかを知り、カリキュラム内容を改善するためであり、さらに学生の学習のあり方を学生自身にも見直していただくための材料を提供するものとなっています。

またアンケートの活用についても外部からの指摘もふまえた議論も続けています。ご注目いただきたいのは、わずか 3 ページですが本報告書の末尾につけた FD 推進委員会からのメッセージです。アンケートそのものについての学生コメントを自由記述のなから 3 つ、アンケート集計結果から 1 つ取りあげました。

<お願い>

ぜひアンケート結果を過去の授業や他の人の授業についてのことと思わず、今後の学生皆さんの学びの改善と授業の改善にご理解をいただきたく、今後ともどうかよろしくご協力をお願いします。

最後になりましたが、アンケートにご協力いただきました、学生と教職員の皆様に改めてお礼を申し上げます。

(注) FD とは大学の授業改善のために始まった全国的な取り組みの一つですが、今では教員個人の取り組み課題や個別授業についてだけではなく、授業を取りまくさまざまな課題をみつけ改善していく組織的な取り組みを可能にするために、教員と職員合同の FD 委員会で話し合いをしています。授業アンケートもその中の活動の一つです。ほかに学生との懇話会や教職員全体で合同の講演やワークショップ等の話し合い活動も行っています。

目 次

はじめに

1. 2014 年度通年・後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的	1
② 実施概要	1
③ 実施方法	1
④ 設定項目	2
⑤ アンケート用紙	3
⑥ 実施科目数	3

2. 2014 年度通年・後期「授業改善のための学生アンケート」 集計結果

① 学部	4
② 大学院	9

3. 2014 年度通年・後期「授業改善のための学生アンケート」 みなさんの声に応えて

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ	14
② 大学院科目 授業担当教員からのメッセージ	36
③ F D推進委員会からのメッセージ	38

1. 2014 年度通年・後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的

- 1) さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- 2) 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- 3) 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- 4) 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- 5) 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

② 実施概要

実 施 期 間：2015 年 1 月 9 日（金）～1 月 29 日（木）

実 施 対 象：原則としてすべての通年・後期科目

※ただし、履修人数が 5 名以下の授業や、授業形態から考えて調査実施が困難な授業などについては、担当教員の申出により、調査対象科目から除外する。

調 査 方 式：無記名式マークシート、自由記述欄あり（p.3 参照）

※学部・大学院統一フォーム

調査所要時間：約 15 分

③ 実施方法

- 1) 授業開始前に、授業担当教員は教務課でアンケート用紙の入った封筒を受け取る。
- 2) 授業終了の 15 分前を目安に、履修学生にアンケート用紙を配布する。
- 3) 任意で設定できる質問項目欄を使用する場合、あらかじめ用意してきた「学生に答えてほしい質問内容」を、口頭あるいは板書で学生に周知する。
- 4) 授業担当教員は、学生に対し実施目的をよく読み、回答を行うように指示する。
- 5) 学生がアンケートを記入している間は、授業担当教員は机間巡視等、必要以上に教室内を移動することで学生の記入の妨げにならないよう注意する。

- 6) 授業担当教員は、受講人数に応じた数の回収担当学生を指名し、終了時刻と同時にアンケート用紙を回収させ、所定の袋に入れ封をするよう指示をする。
- 7) 授業終了後、授業担当教員または回収担当学生は教務課にアンケート用紙を回収した厳封済みの袋を提出する。

④ 設問項目

- Q1 この授業にどの程度出席しましたか。
- Q2 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。
- Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたと思いますか。
- Q4 この授業の内容を十分に習得できたと思いますか。
- Q5① この授業のシラバスを事前にしっかり読みましたか。
- Q5② この授業の内容はシラバスに沿ったものでしたか。(シラバスを読んだ人のみ)
- Q6 教員の話は聞き取りやすかったですか。
- Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
- Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
- Q9 (大学院科目対象外) 板書(パワーポイント等も含む)はわかりやすかったですか。
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
- Q11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。
- Q12 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
- Q13 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
- Q14 この授業の進度は適切でしたか。
- Q15 この授業の難易度は適切でしたか。
- Q16 (大学院科目対象外) この授業の履修人数は適切でしたか。
- Q17 教室の設備は適切でしたか。
- Q18 必要な資料は研究室・図書館などに備えられていましたか。
- Q19 最後にこの科目の総合評価をききます。この授業を履修したことに満足していますか。
- Q20 この授業について、良かった点、改善してほしい点などを自由に記述してください。
- Q21 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることなどを、自由に記述してください。
- Q22 (教員より指示があった場合のみ記述してください)
- Q23① この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だと思いますか。

Q23② (Q23①で「いいえ」と答えた人のみ) 欠けている項目、不適切な項目などを、具体的に記述してください。

[illegible][illegible]

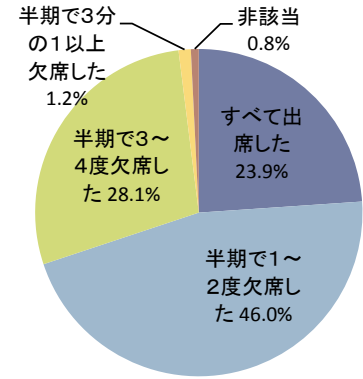
718 科目 (学部 678 科目、大学院 40 科目)

2. 2014年度通年・後期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

① 学部

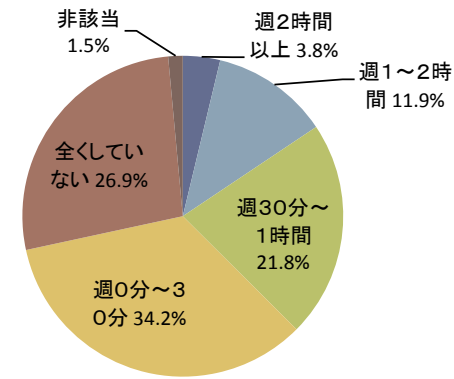
Q 1 この授業にどの程度出席しましたか。

No.	Category	度数	%
1	すべて出席した	3,762	23.9%
2	半期で1～2度欠席した	7,231	46.0%
3	半期で3～4度欠席した	4,423	28.1%
4	半期で3分の1以上欠席した	190	1.2%
5	非該当	122	0.8%
	合計	15,728	



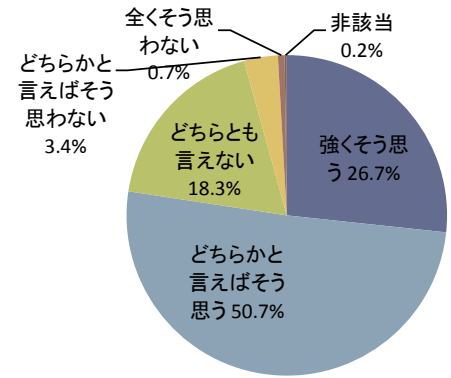
Q 2 （大学院科目対象外） 授業以外の学習（予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など）に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	590	3.8%
2	週1～2時間	1,866	11.9%
3	週30分～1時間	3,435	21.8%
4	週0分～30分	5,373	34.2%
5	全くしていない	4,234	26.9%
6	非該当	230	1.5%
	合計	15,728	



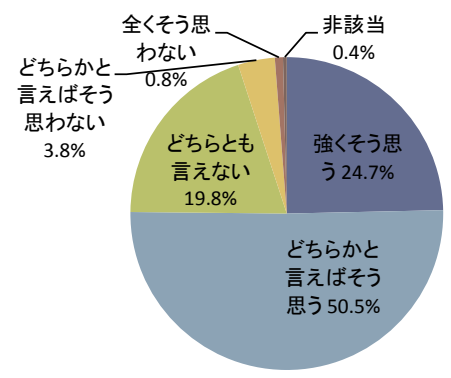
Q 3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	4,198	26.7%
2	どちらかと言えばそう思う	7,975	50.7%
3	どちらとも言えない	2,878	18.3%
4	どちらかと言えばそう思わない	537	3.4%
5	全くそう思わない	106	0.7%
6	非該当	34	0.2%
	合計	15,728	



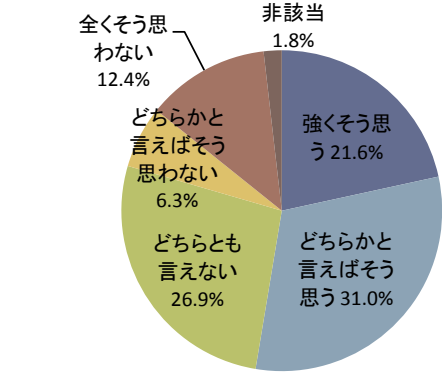
Q 4 この授業の内容を十分に習得できたか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	3,877	24.7%
2	どちらかと言えばそう思う	7,944	50.5%
3	どちらとも言えない	3,115	19.8%
4	どちらかと言えばそう思わない	599	3.8%
5	全くそう思わない	132	0.8%
6	非該当	61	0.4%
	合計	15,728	



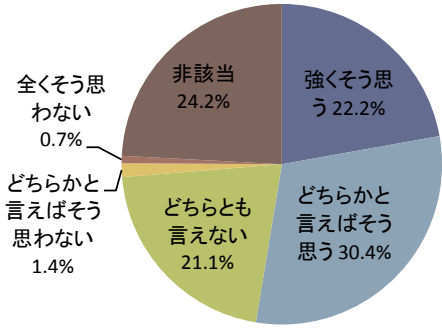
Q 5① この授業のシラバスを事前にしっかり読みましたか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	3,395	21.6%
2	どちらかと言えばそう思う	4,881	31.0%
3	どちらとも言えない	4,228	26.9%
4	どちらかと言えばそう思わない	984	6.3%
5	全くそう思わない	1,954	12.4%
6	非該当	286	1.8%
	合計	15,728	



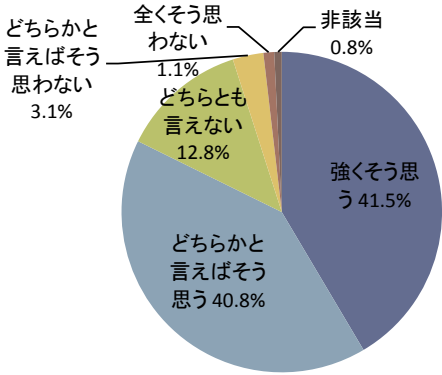
Q 5② この授業の内容はシラバスに沿ったものでしたか。（シラバスを読んだ人のみ）

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	3,489	22.2%
2	どちらかと言えばそう思う	4,782	30.4%
3	どちらとも言えない	3,323	21.1%
4	どちらかと言えばそう思わない	218	1.4%
5	全くそう思わない	116	0.7%
6	非該当	3,800	24.2%
	合計	15,728	



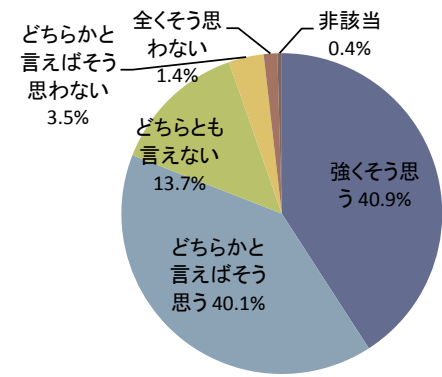
Q 6 教員の話は聞き取りやすかったですか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	6,524	41.5%
2	どちらかと言えばそう思う	6,418	40.8%
3	どちらとも言えない	2,009	12.8%
4	どちらかと言えばそう思わない	488	3.1%
5	全くそう思わない	170	1.1%
6	非該当	119	0.8%
	合計	15,728	



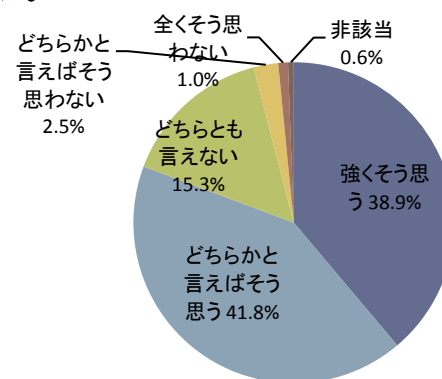
Q 7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	6,428	40.9%
2	どちらかと言えばそう思う	6,300	40.1%
3	どちらとも言えない	2,160	13.7%
4	どちらかと言えばそう思わない	555	3.5%
5	全くそう思わない	215	1.4%
6	非該当	70	0.4%
	合計	15,728	



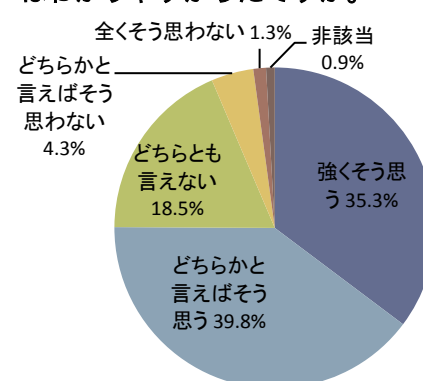
Q 8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	6,111	38.9%
2	どちらかと言えばそう思う	6,582	41.8%
3	どちらとも言えない	2,401	15.3%
4	どちらかと言えばそう思わない	389	2.5%
5	全くそう思わない	154	1.0%
6	非該当	91	0.6%
	合計	15,728	



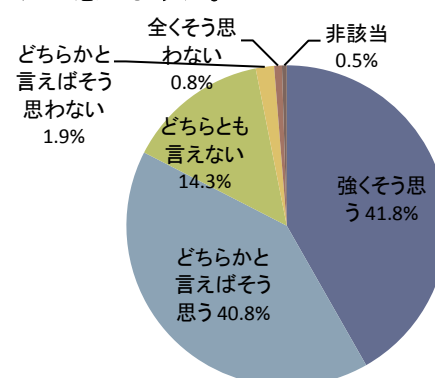
Q 9 (大学院科目対象外) 板書(パワーポイント等も含む)はわかりやすかったですか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	5,545	35.3%
2	どちらかと言えばそう思う	6,263	39.8%
3	どちらとも言えない	2,912	18.5%
4	どちらかと言えばそう思わない	670	4.3%
5	全くそう思わない	201	1.3%
6	非該当	137	0.9%
	合計	15,728	



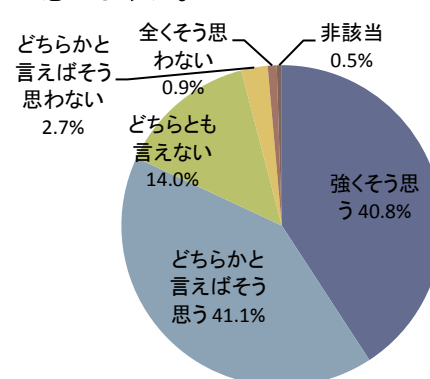
Q 10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	6,568	41.8%
2	どちらかと言えばそう思う	6,415	40.8%
3	どちらとも言えない	2,255	14.3%
4	どちらかと言えばそう思わない	291	1.9%
5	全くそう思わない	123	0.8%
6	非該当	76	0.5%
	合計	15,728	



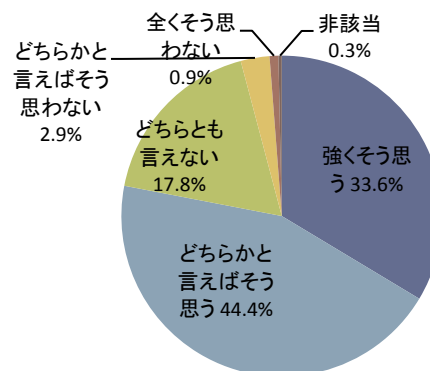
Q 11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	6,418	40.8%
2	どちらかと言えばそう思う	6,471	41.1%
3	どちらとも言えない	2,199	14.0%
4	どちらかと言えばそう思わない	418	2.7%
5	全くそう思わない	142	0.9%
6	非該当	80	0.5%
	合計	15,728	



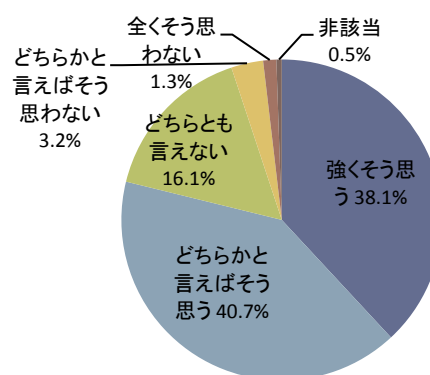
Q 1 2 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。

No.	Category	度数	%
1	強く思う	5,287	33.6%
2	どちらかと言えば思う	6,985	44.4%
3	どちらとも言えない	2,807	17.8%
4	どちらかと言えば思わない	457	2.9%
5	全く思わない	139	0.9%
6	非該当	53	0.3%
	合計	15,728	



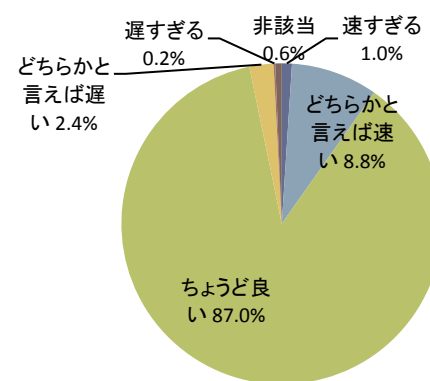
Q 1 3 この授業の内容に興味を持つことができましたか。

No.	Category	度数	%
1	強く思う	5,990	38.1%
2	どちらかと言えば思う	6,409	40.7%
3	どちらとも言えない	2,529	16.1%
4	どちらかと言えば思わない	507	3.2%
5	全く思わない	208	1.3%
6	非該当	85	0.5%
	合計	15,728	



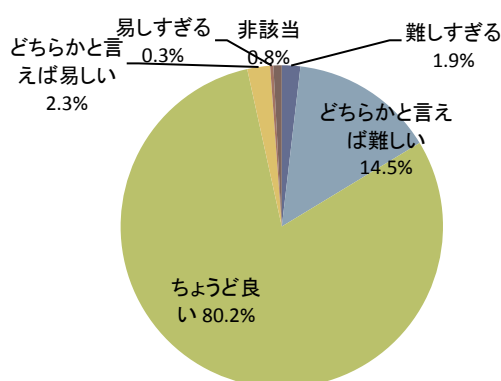
Q 1 4 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	160	1.0%
2	どちらかと言えば速い	1,378	8.8%
3	ちょうど良い	13,679	87.0%
4	どちらかと言えば遅い	382	2.4%
5	遅すぎる	27	0.2%
6	非該当	102	0.6%
	合計	15,728	



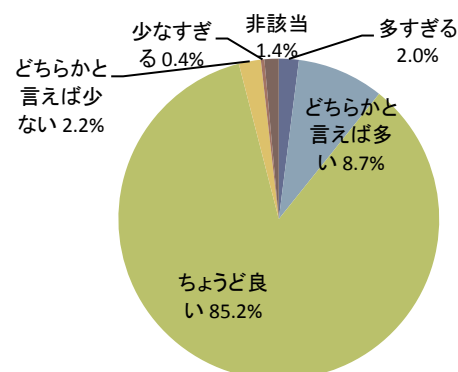
Q 1 5 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	291	1.9%
2	どちらかと言えば難しい	2,277	14.5%
3	ちょうど良い	12,618	80.2%
4	どちらかと言えば易しい	360	2.3%
5	易しすぎる	51	0.3%
6	非該当	131	0.8%
	合計	15,728	



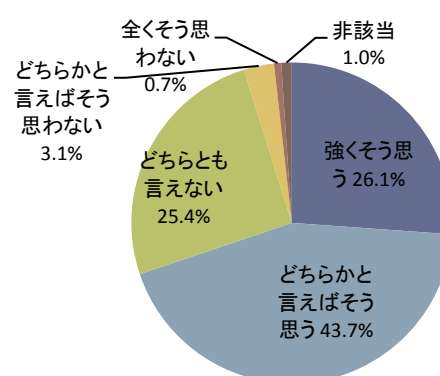
Q 1 6 (大学院科目対象外) この授業の履修人数は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	316	2.0%
2	どちらかと言えば多い	1,375	8.7%
3	ちょうど良い	13,406	85.2%
4	どちらかと言えば少ない	349	2.2%
5	少なすぎる	56	0.4%
6	非該当	226	1.4%
	合計	15,728	



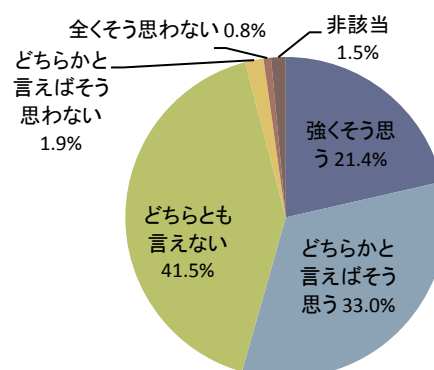
Q 1 7 教室の設備は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	4,110	26.1%
2	どちらかと言えばそう思う	6,871	43.7%
3	どちらとも言えない	3,988	25.4%
4	どちらかと言えばそう思わない	480	3.1%
5	全くそう思わない	114	0.7%
6	非該当	165	1.0%
	合計	15,728	



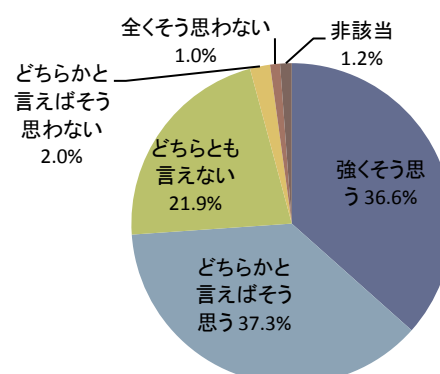
Q 1 8 必要な資料は研究室・図書館などに備えられていましたか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	3,370	21.4%
2	どちらかと言えばそう思う	5,188	33.0%
3	どちらとも言えない	6,526	41.5%
4	どちらかと言えばそう思わない	294	1.9%
5	全くそう思わない	118	0.8%
6	非該当	232	1.5%
	合計	15,728	



Q 1 9 最後にこの科目の総合評価をききます。この授業を履修したことに満足していますか。

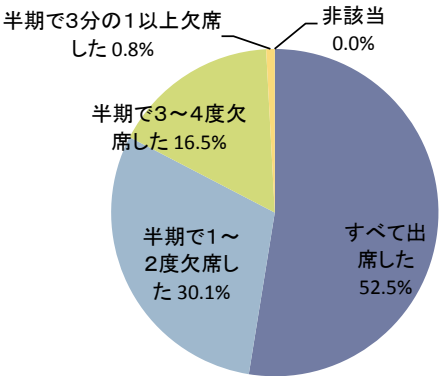
No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	5,753	36.6%
2	どちらかと言えばそう思う	5,871	37.3%
3	どちらとも言えない	3,444	21.9%
4	どちらかと言えばそう思わない	319	2.0%
5	全くそう思わない	157	1.0%
6	非該当	184	1.2%
	合計	15,728	



② 大学院

Q 1 この授業にどの程度出席しましたか。

No.	Category	度数	%
1	すべて出席した	124	52.5%
2	半期で1～2度欠席した	71	30.1%
3	半期で3～4度欠席した	39	16.5%
4	半期で3分の1以上欠席した	2	0.8%
5	非該当	0	0.0%
	合計	236	



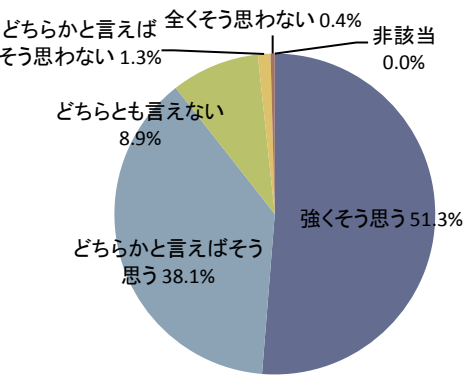
Q 2 （大学院科目対象外） 授業以外の学習（予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など）に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	0	
2	週1～2時間	0	
3	週30分～1時間	0	
4	週0分～30分	0	
5	全くしていない	0	
6	非該当	0	
	合計	0	

大学院科目対象外

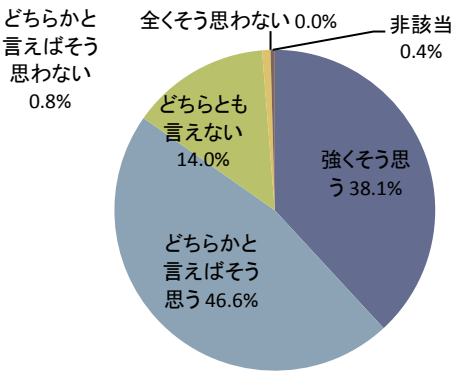
Q 3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	121	51.3%
2	どちらかと言えばそう思う	90	38.1%
3	どちらとも言えない	21	8.9%
4	どちらかと言えばそう思わない	3	1.3%
5	全くそう思わない	1	0.4%
6	非該当	0	0.0%
	合計	236	



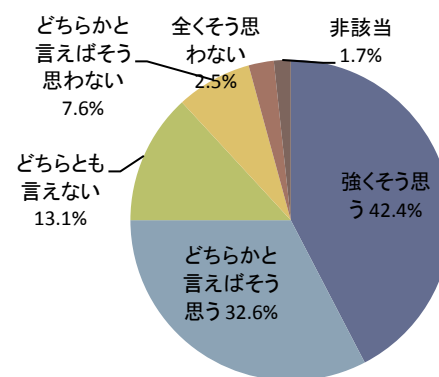
Q 4 この授業の内容を十分に習得できたと思いますか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	90	38.1%
2	どちらかと言えばそう思う	110	46.6%
3	どちらとも言えない	33	14.0%
4	どちらかと言えばそう思わない	2	0.8%
5	全くそう思わない	0	0.0%
6	非該当	1	0.4%
	合計	236	



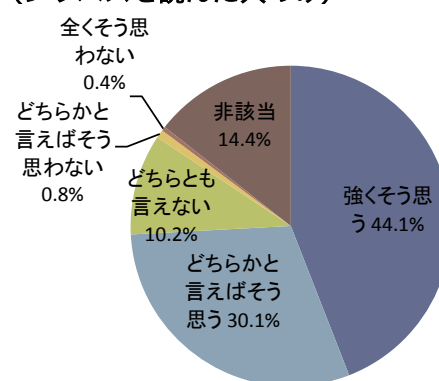
Q 5① この授業のシラバスを事前にしっかり読みましたか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	100	42.4%
2	どちらかと言えばそう思う	77	32.6%
3	どちらとも言えない	31	13.1%
4	どちらかと言えばそう思わない	18	7.6%
5	全くそう思わない	6	2.5%
6	非該当	4	1.7%
	合計	236	



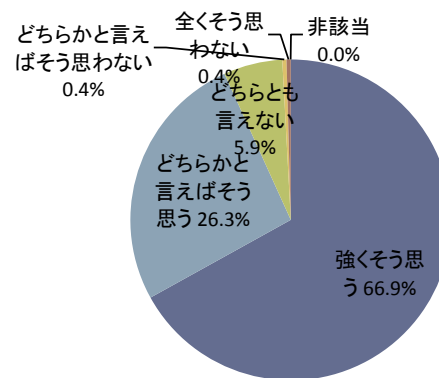
Q 5② この授業の内容はシラバスに沿ったものでしたか。(シラバスを読んだ人のみ)

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	104	44.1%
2	どちらかと言えばそう思う	71	30.1%
3	どちらとも言えない	24	10.2%
4	どちらかと言えばそう思わない	2	0.8%
5	全くそう思わない	1	0.4%
6	非該当	34	14.4%
	合計	236	



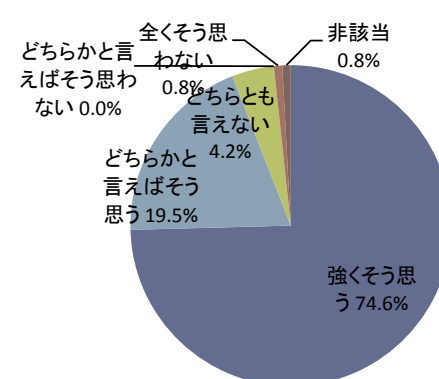
Q 6 教員の話は聞き取りやすかったですか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	158	66.9%
2	どちらかと言えばそう思う	62	26.3%
3	どちらとも言えない	14	5.9%
4	どちらかと言えばそう思わない	1	0.4%
5	全くそう思わない	1	0.4%
6	非該当	0	0.0%
	合計	236	



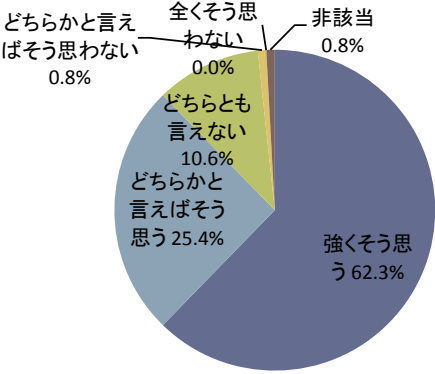
Q 7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	176	74.6%
2	どちらかと言えばそう思う	46	19.5%
3	どちらとも言えない	10	4.2%
4	どちらかと言えばそう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	2	0.8%
6	非該当	2	0.8%
	合計	236	



Q 8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	147	62. 3%
2	どちらかと言えばそう思う	60	25. 4%
3	どちらとも言えない	25	10. 6%
4	どちらかと言えばそう思わない	2	0. 8%
5	全くそう思わない	0	0. 0%
6	非該当	2	0. 8%
	合計	236	



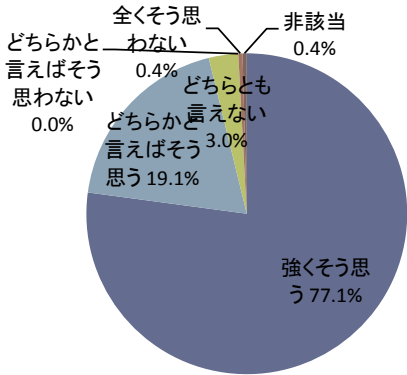
Q 9 (大学院科目対象外) 板書 (パワーポイント等も含む) はわかりやすかったですか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	0	
2	どちらかと言えばそう思う	0	
3	どちらとも言えない	0	
4	どちらかと言えばそう思わない	0	
5	全くそう思わない	0	
6	非該当	0	
	合計	0	

大学院科目対象外

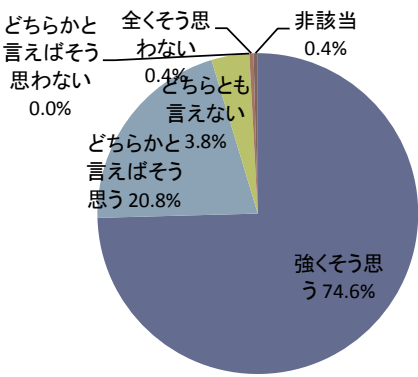
Q 1 0 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	182	77. 1%
2	どちらかと言えばそう思う	45	19. 1%
3	どちらとも言えない	7	3. 0%
4	どちらかと言えばそう思わない	0	0. 0%
5	全くそう思わない	1	0. 4%
6	非該当	1	0. 4%
	合計	236	



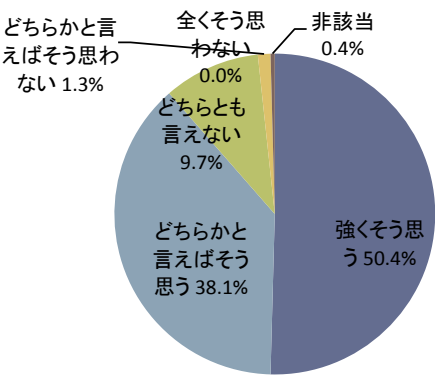
Q 1 1 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	176	74. 6%
2	どちらかと言えばそう思う	49	20. 8%
3	どちらとも言えない	9	3. 8%
4	どちらかと言えばそう思わない	0	0. 0%
5	全くそう思わない	1	0. 4%
6	非該当	1	0. 4%
	合計	236	



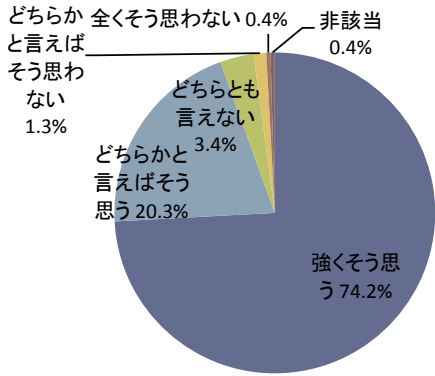
Q 1 2 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。

No.	Category	度数	%
1	強く思う	119	50.4%
2	どちらかと言えば思う	90	38.1%
3	どちらとも言えない	23	9.7%
4	どちらかと言えば思わない	3	1.3%
5	全くそう思わない	0	0.0%
6	非該当	1	0.4%
	合計	236	



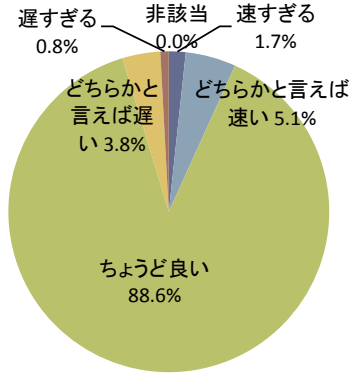
Q 1 3 この授業の内容に興味を持つことができましたか。

No.	Category	度数	%
1	強く思う	175	74.2%
2	どちらかと言えば思う	48	20.3%
3	どちらとも言えない	8	3.4%
4	どちらかと言えば思わない	3	1.3%
5	全くそう思わない	1	0.4%
6	非該当	1	0.4%
	合計	236	



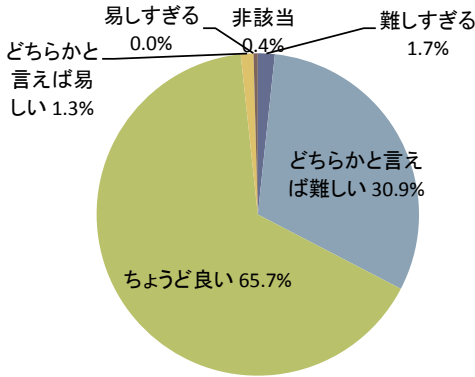
Q 1 4 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	4	1.7%
2	どちらかと言えば速い	12	5.1%
3	ちょうど良い	209	88.6%
4	どちらかと言えば遅い	9	3.8%
5	遅すぎる	2	0.8%
6	非該当	0	0.0%
	合計	236	



Q 1 5 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	4	1.7%
2	どちらかと言えば難しい	73	30.9%
3	ちょうど良い	155	65.7%
4	どちらかと言えば易しい	3	1.3%
5	易しすぎる	0	0.0%
6	非該当	1	0.4%
	合計	236	



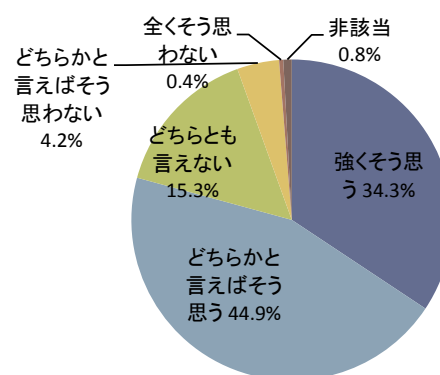
Q 1 6 (大学院科目対象外) この授業の履修人数は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	0	
2	どちらかと言えば多い	0	
3	ちょうど良い	0	
4	どちらかと言えば少ない	0	
5	少なすぎる	0	
6	非該当	0	
	合計	0	

大学院科目対象外

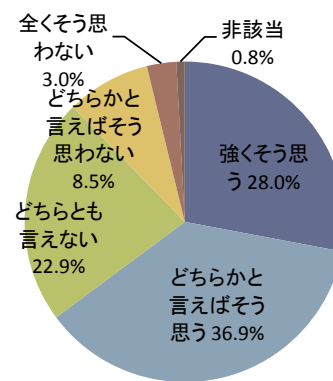
Q 1 7 教室の設備は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	81	34.3%
2	どちらかと言えばそう思う	106	44.9%
3	どちらとも言えない	36	15.3%
4	どちらかと言えばそう思わない	10	4.2%
5	全くそう思わない	1	0.4%
6	非該当	2	0.8%
	合計	236	



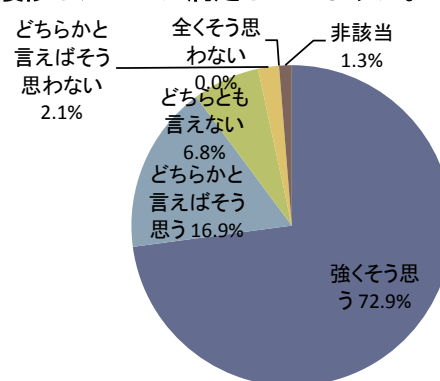
Q 1 8 必要な資料は研究室・図書館などに備えられていましたか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	66	28.0%
2	どちらかと言えばそう思う	87	36.9%
3	どちらとも言えない	54	22.9%
4	どちらかと言えばそう思わない	20	8.5%
5	全くそう思わない	7	3.0%
6	非該当	2	0.8%
	合計	236	



Q 1 9 最後にこの科目の総合評価をききます。この授業を履修したことに満足していますか。

No.	Category	度数	%
1	強くそう思う	172	72.9%
2	どちらかと言えばそう思う	40	16.9%
3	どちらとも言えない	16	6.8%
4	どちらかと言えばそう思わない	5	2.1%
5	全くそう思わない	0	0.0%
6	非該当	3	1.3%
	合計	236	



3. 2014 年度通年・後期「授業改善のための学生アンケート」みなさんの声に応じて

学生の皆さんが回答してくれたアンケート結果は、個人が特定されないように集計された後、自由記述も含めて、担当教員へすべて確実に届いています。この章では、アンケートを通じて届けられたみなさんの声に応じて、授業毎に担当教員からのメッセージをお戻しします。

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ

ボランティア・キャリア体験Ⅱ	川中 信	2014/月Ⅴ・Ⅵ/後期
体験先ではなく、わざわざ共通科目研究室に来てアンケートに記入して下さった学生の皆さんに感謝申し上げます。ANA、パティシエ体験、小学校、福祉施設などさまざまな体験をした学生がいました。評価の平均点が 4.0 以上と高かった項目は、以下の項目でした。 Q1「この授業にどの程度出席しましたか」 4.00 (以下、5 段階評価に換算したもの) Q2「授業以外の学習 (予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など) に、平均してどの程度時間をかけましたか」 4.69。ただし” 週 2 時間以上” 5 人、“週 1～2 時間” 4 人、“週 30 分～1 時間” 3 人、“週 30 分以内” 1 人、“全くしていないまたは無回答” 0 人でした。 Q3「この授業に主体的に取り組むことができましたと思いますか」 4.69。ただし”強くそう思う”9 人、“どちらかと言えばそう思う”4 人でした。ほか回答 0。 Q4「この授業の内容を十分に習得できたと思いますか」 4.54。ただし”強くそう思う”7 人、“どちらかと言えばそう思う”6 人でした。 Q12「この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか」 4.54。 Q13「この授業の内容に興味を持つことができましたか」 4.77。ただし”強くそう思う” 10 人、“どちらかと言えばそう思う” 3 人でした。ほか回答 0。 Q19「この授業を履修したことに満足していますか」 4.38 <以下、履修学生の了解を得てコメントを掲載します> ■<u>Q20.この授業について、良かった点、改善してほしい点</u> 良かった点について、「考えるだけでなく、すぐに行動に移すこと」「半年かけて短期では改善できない自分の考え方や言葉遣いなど改めることができた」「弱みを改善していくことのおもしろさ」「子どもの成長」を学んだという声をいただき、とてもうれしいです。レポートを書く意義を含めて、皆さんが手応えのある成長を実感されていると感じました。また企業やパティシエであれ、小学校や福祉であれ、社会(企業・施設理解)と子どもの成長(利用者理解)をかかげた授業の目標は達成されました。みなさまの積極的な参加と社会貢献に心から感謝します。		

＜以下、履修学生の理解を得てすべての自由記述を掲載します＞

- ・自分なりによく考え、考えるだけでなく、すぐに行動に移すことが出来る授業だと思いました。
- ・アドバンスコースでは学校の単位とは関係ないにもかかわらず、先生が毎回スクールに来て、毎回事後指導もしてくださり、スクールでは講師の方々からほめてもらえる良い Take off sheet を書くことができた。私達3人をきちんと見られるよう、わがままなスケジュールのお願いも聞いて下さり、とても嬉しく思っています。
- ・授業、評価についての説明が全くといっていいほどなかった。

コメント→年度と学期の最初にポイントは説明させていただきました。体験評価のものさしを読み返していただくとありがたいです。また前期の評価に関して、全員とお話したことも評価についての説明でした。

- ・レポート提出が翌日というのは少しきついです。あの活動ですと家に帰るのは11時近くで、食事やお風呂などを済ますと早くても12時は過ぎるし、そこからレポートをやるのは次の日が1限の人には厳しいし、それが毎週というのは体力的にきついと思います。次の日も1限から4限までうまっているので空きコマにレポートを作成するというのは無理であるし、そこはもう少し考えて頂きたかったです。
- ・接遇者や社会人としての知識の他にも、自分でできることを探していく力も身についたと思う。
- ・毎回事後指導があったので良かった。もし、可能であれば実務体験で授業を休む時、欠席ではなく考慮してほしい。

コメント→就活でもそうですが、資格課程の授業でも公欠にならない活動があります。すべてご理解いただいた上で、各人の判断や日頃の出席管理をお願いしていきたいと思います。

- ・授業で、資料を使い、理解できるまでくわしく説明又理解する時間を下さり、本当勉強になりました。
- ・普段かかわることのない施設で色々な家庭状況の子供たちと触れ合うことで、考え方が広がり社会に一步出てみてレポートに書くことの大変さを知れた。最初全くボランティアのことが分からずもう少ししっかりとして説明がほしかった。時間を延長して夜帰るのが遅くなったり、次の日のお昼までにレポートを出すのは家が遠いので、もう少し期間によゆうがほしかった。
- ・企業と直接関われるという点についてとても良かったと思います。個人ではなかなか体験できなかったことを体験させて頂きとても良い経験になりました。
- ・インターンに行き、実際の現場で今までよりANAのことをよく知ることができた。
- ・スクールを受講した次の週、事後指導をして下さったことがとても嬉しかったです。予定がなかなか合わず、遅い時間の面談であったにも関わらずお付き合い頂き、毎週多くのことを学ばせて頂いておりました。本当にありがとうございました。先生の意図をなかなか理解できず悔しい思いを何度もしましたが、いつも親身になって向き合って下さる先生がいらっしゃったおかげで、乗る越えることができたと思います。
- ・小学校生活を1年を通して見ることができ、学校の動きが分かったことが良かった。体験カードを提出したらそのままになってしまうため、記録として個人個人に返却されるといいなと思う。
- ・実務体験では約半年かけて行くことで、短期では改善できない自分の考え方や言葉遣いなど改めることができたので良かった。

■Q21.この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していること

＜以下、履修学生の了解を得てすべての自由記述を掲載します＞

- ・1回1回を貴重な体験として、取り組めば良かったと思う。
- ・アドバンスコースと実務体験がかさなり、実務体験の事後指導がおろそかになる場合があった。これは自分でもっとコントロールすべきだった。
- ・1年間を通して、パティシエのことだけでなく人間関係や社会の厳しさなども学ぶことができて、良い経験ができました。
- ・もう少し早く自身の中で、理解を深めたかったです。
- ・世の中には色々な家庭状況の子供たちがいて、それぞれが何か悩みをかかえていて、それを子供たちの行動から読みとることが大切だと学んだ。また、社会に出て、大人との関わりや、レポートの書き方を学ぶことができた。土日にボランティアに行ったり、時間が延長することが私にはあまり時間がなく、精一杯の気持ちで子供たちとかかわってしまった部分があったと思う。
- ・社会人と学生の違いについて学びました。そしてANAの企業理念が実際の体験を通して学ぶことができました。
- ・接遇の基本を身を持って経験し新たな発見を活かしていきたい。
- ・私が学んだことは、弱みを改善していくことの面白さです。授業では自分とたくさん向き合い、強みも弱みも、あらゆる自分を受け入れなければなりません。しかし弱みを認めることは決して悪いことでも嫌なことでもなく、強みに変えるために必要なことなのだと気付くことができました。
- ・小学校の生活はとても忙しく、先生方がキビキビと動いているのが心に残った。また、1年間を通して子供と関わっていると、成長が見られ、とても興味をもった。その成長に合わせて、先生方の指導の方法、言葉が変わっていることが分かり、良い体験となった。

ボランティア・キャリア体験Ⅱ

川中 信

2014/木Ⅰ・Ⅱ/後期

■Q20.この授業について、良かった点、改善してほしい点

レポートを書く意義として「やり放しにせず時間外をふくめた主体的な学修の実質化を図る意義」はご理解いただいた上でのことだと思いますが、忘れないうちにその日の反省や社会人から学んだ洞察と課題意識を整理することの大切さと、出欠確認の意味も含めて、翌日には提出いただくようにしています。ただ翌日提出がどうしても難しい場合、たとえば翌日は授業がないなど事情をお聞かせいただければ、ご相談に応じられる点もあると思いますので、ご相談ください。

＜以下、履修学生の了解を得てすべての自由記述を掲載します＞

- ・とても良い経験ができました。レポートの提出期限をもう少しのばして頂きたいです。
- ・自宅からとても遠く、疲れが溜まり体調を崩してしまうことがありました。翌日の昼までにレポートを提出するというのも私にとってはかなり大きな負担になっていました。レポートに期日を少しのばしていただけると良いなと思いました。
- ・事後指導等があったおかげで、自分をより成長させることができた。この機会がなければ、ここまで自分

はこれなかったと思うので、本当にいい授業をさせていただいたと思う。

- ・その自分が気になる職種の現場を見れたこと。

■Q21.この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していること

Q20 にも記述がありますが良かった点について、パティシエや学校教育などの「自分が気になる職場」「仕事」そしてご自分の「成長」を学んだという声をいただき、皆さんが手応えのある成長を実感されていると感じました。社会(企業・学校理解)と子どもの成長(子ども理解)をかかげた授業の目標は達成されたと思います。みなさまの積極的な参加と社会貢献に心から感謝します。

<以下、履修学生の了解を得てすべての自由記述を掲載します>

- ・実際の教育の現場で働くという視点から小学校を見ることができました。後期は2年生のクラスに行くことも多く、1年生と2年生への対応のちがいに学ぶことができました。反省してる点は、自分の体調管理や計画確認のミスで体験を欠席してしまった点です。
- ・自ら最後まであきらめずに努力をすれば、見てもらえる部分がたくさんあると感じたので、これからも教えてもらったことを活かし、次に繋げていきたいと思う。
- ・仕事というのがどういうものか学んだ。

社会活動におけるマネジメントB

川中 信

2014/月Ⅲ/通年

学生として社会人として、課題発見と解決など前にすすむ力、そしてチームで協力する力を実践的に身につけていただくことを願った授業計画です。そのための大人数教室ではありましたが、ファシリテーションを学ぶグループワークでしたが、下記の点数からも想像できるとおり主体的に取り組むことができたという感想ばかりではありませんでした。「自ら進んで参加していかないと学びにはならない」という学生の声にもありますが、その意義について、まだ説明が足りなかったのかもしれません。もっともグループワークやファシリテーションについての説明やそれを理解するための教材についても、賛否さまざまな意見をいただきましたので、多様な学生に対応する授業をさらに開発していきたいと思います。

マークシートだけではわからないので自由記述を皆さんにお願いしました。それもすべて公開する前提でのお願いでしたが、大変に参考になりました。ありがとうございました。

回答者 105 人

■Q3「この授業に主体的に取り組むことができたと思いますか」

3.69

■Q19「この授業を履修したことに満足していますか」

3.30

■Q20.この授業について、良かった点、改善してほしい点

＜以下、履修学生の理解を得てすべての自由記述を掲載します＞

- ・とてもとても為になる授業でした。今しているアルバイトは肉体労働で、男社会の中で働いているのだが、私が女でも役割があり、自分自身につながる仕事をしている。ジェンダーへの気づきを知り、仕事をする上での参考になるとてもいい勉強でした。
- ・この授業の意図や学ぶ必要性が良くわからなかった。重くて、厚くて、高いこの教科書の必要性をわからなかった。
- ・ゲーム形式で楽しくてよかった。
- ・プロジェクターを表示する際に暗くなりすぎて、メモがとりにくく感じた。
- ・歌の視聴が良かった。
- ・「赤ちゃんがうまれた」のゲームがおもしろくて良かったです。説明が丁寧で良かったです。
- ・Y o u t u b e をつかうなどしてわかりやすかった。
- ・ゲームをやったことで、普通の授業よりも主体的に取り組むことができて良かった。
- ・質問の意味が分からないことが多々あった。パワポのすすむはやさについていくのが大変だった。
- ・参加型の講義なので、自ら進んで参加をしていかないと学びにはならないが、ファシリテーターという存在により入りやすかった。
- ・ビヨンセの曲初めて聞きましたが、意味がこんな深いんだ。メッセージが隠れていたこと知りました。
- ・色々なビデオや歌をきいたりみたりすることができて、とても楽しかった。授業を通して改めて気付くこともあった。
- ・カードゲームが楽しかった。マネジメントは自分のためではなく、相手のために必要なんだと思う。パワーポイントが部屋が明るすぎて見えなかった。
- ・グループ作業は面白かったです。
- ・先生の声が聴き取りやすかったです。
- ・パワーポイントにまとまっていたので、理解するのが分かりやすくて良かった。音楽を流したり、話し合ったりするのも楽しくて良かった。たまに、パワーポイントのスライドが速い時があった。
- ・発言する機会があるのは眠くならないし、良いと思う。一方的に授業を受けるような形ではなく、来年もこのような形で授業をしてほしいと思う。
- ・履習人数が多いこともあり、上手くロールプレイ出来ていないように感じた。それでも、何とか参加してもらおうという先生の努力は感じられた。
- ・パワポやゲームなどをしながらできて、わかりやすく興味をもつことができました。
- ・パワーポイントをもっとゆっくり書きたい。パワポの時は前の方を暗くするなどしてほしい。音楽やゲームなど参加しやすい内容でよかった。
- ・最後すごく気にかけてくれたところ。
- ・なんでもマイクを使うのはどうかと思いました。カードゲームが楽しい。内容も理解しやすかったです。
- ・普段自分が考えるような視点ではなく、違った視点から勉強に取り組んだので、面白かったのは事実だが、教材にするものが何故これを選んだのかよく分からないことが多かった。
- ・人と話す、話し合うことで友人が増えた。トイレにも行かせてくれないのはおかしい。

- ・カードの授業が一番楽しかったです。
- ・パワーポイントがあまりに見づらい。学生の気持ちになって授業を進めた方がいい。良かったところは見当たらない。
- ・なぜビヨンセばかりなのか分からない。→他のアーティストは？
- ・板書があれば内容理解しやすいです。
- ・説明が聞きやすかったことが良かった。ゲームを取り入れて授業をすることで理解しやすかった。
- ・ビヨンセの歌の映像や歌詞に注目した所が良かった。海外の男女性別の問題について、映像から伝わってきた。
- ・社会問題について考えながら、マネジメントとは何かを学べた。音楽や詞を通すことで身近に感じられた。
- ・Power Pointの流れる速く、ついていくのに苦労した。映像観る際に部屋を暗くしすぎている。
- ・先生の説明が丁寧で分かりやすかったけれど、分からない人などのことを少し待ちすぎているかなと思いました。
- ・なんだか…。
- ・すごく楽しかったです。
- ・ゲームをすることで他の人と意見を交換することにも少し慣れたし、その問題点が何なのかも理解しやすかった。
- ・説明がむずかしくてどのようなことをいいたいか分からないときがありました。
- ・前期の社会マネジメントAよりも受けやすかった。授業の内容がわかりやすく、ミリーの赤いドレスや男の子の子どもたちがいいか、など身近な話題が多かったから。でも、こんな内容じゃあまり役にはたないから、ステップアップとしてもう少し悩んで考える話題もほしかった。
- ・内容以前に日本語が何を言ってるかわかりません。
- ・ゲームとかやってて、たのしくてたのしく勉強できました！！パワーポイントが見えなかったです。暗くしないと見えないです。
- ・話し合いやロールプレイが良かったです。実際に体験することで授業内容がわかりやすくなりました。パワーポで内容がまとまっていて、説明が頭に入りやすかったです。
- ・シラバスには、テストはないと書いてあったのに、実はあった。なんてのは、マニフェスト通りではないと思いました。
- ・ビヨンセの曲を聴いたこと（言葉で長く説明されるよりは良い）。
- ・先生の海外での話をもっとした方が良い。
- ・普通の授業ではあまりやらないゲーム等をするので、授業が毎回新鮮で楽しかった。
- ・教科書にのっている発問のまま授業をやってもらいたかった。先生の言っていることの意味がよく分からず、なにをどうしたいのか指示がよく分からなかったです。
- ・生徒の書くスピードをしっかりと考慮してくれてよかった。カードゲームがおもしろかった。たまに難しい質問があり、理解するのに時間がかかったことがあった。
- ・答えの分かりきったゲームで全く面白くなかった。ゲームを通して知り得た、体感した驚きなどがなく、

授業に対する意欲が下がった。

- ・良かった点…カードゲーム・ファシリテーターについて。改善してほしい点…中・高校生のような授業で、説明を何回もするのはいいが、分かりづらかった。
- ・いろいろな考えがあるとした。電気まっくらにしないでほしい。画面切りかえるの早い。教室が明るくてパワーポイントが見えないのに、自分の見せたいビデオの時だけ少し暗くするのをやめてほしい。
- ・もっと少ない人数で、発言しやすい場であると良かった。
- ・大人数だけれどもロールプレイや読み合うことで理解を深めることができると思う。
- ・多人数の授業でしたが、全員がグループワークなどで参加する事ができた。
- ・眠くならないように話し合いなどの動きを入れていて良かったです。
- ・もう少しわかりやすい説明、進め方をしてほしい。
- ・参加型だった所が良かったと思いますが、たまに、よくわからない説明があったりしたので、気をつけてもらいたいです。(たぶん先生の言葉使いが丁寧すぎるのが原因だと思います。)
- ・グループディスカッションの中でファシリテーターという役職を置いたり、発言する機会があったが、あまりみんな参加していなかった。
- ・パワポが見えづらいため、字の大きさ、部屋の明るさを調節してほしい。
- ・教師として説明能力の乏しさは致命的だった。
- ・ゲームなどを4人などですることによって授業をねずに楽しくできたと思ったので良かったです。逆に、パワポだけのときはねている人が多かったと思う。
- ・音楽を資料として扱っていて飽きなかった。
- ・実際のゲームを通して学ぶことで、わかりやすかった。
- ・もう少しみんなが納得できて分かりやすく、気分の良い授業をお願いしたいです。
- ・ビヨンセとか意味がわからなかった。最初から最後まで何を学んでいるのかさっぱりわからなかった。グループワークとかマイクを渡して発言するとか授業方法も良くない。
- ・ゲームなど、頭をつかうアクティビティがあったので集中して取り組むことができた。
- ・ビヨンセの歌について学んだ点が良かった。

■ Q21.この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していること

＜以下、履修学生の了解を得てすべての自由記述を掲載します＞

- ・もっと考えて、自分の意見を述べたり書けたりする意欲が自分に足りないと感じた。
- ・ジェンダーについて学びました。
- ・この授業で初めてファシリテーターという言葉を知ることができ、全員が発言しやすくとっても良い方法だと学んだ。
- ・ファシリテータについて、ジェンダーについて、女性のあり方について。
- ・発問をよく考えて話す話もしやすいし発展していくことを学んだ。
- ・ファシリテーターのことも学ぶことができたし、ビヨンセの考え方や男女平等についても学ぶことができた。
- ・ファシリテータは重要だが、なかなか自分からやりたいと思わなかった。女性として社会でもっともっと

活躍したい。女性だから…あきらめるのは、よくないと思う。 ・ファシリテーターについて、発問の変え方について学んだ。 ・少し難しかったので、もっと予習すれば良かった。 ・復習をしなかったため。自分のものにはあまりできなかった。 ・社会のことなど全然今まで知ることがなかったことを知ることができました。 ・分かりやすかった ビヨンセを通して男女の差別のことを理解できた。 ・自分から発言することが大切だと改めて学んだ。 ・ファシリテーターを中心にグループワークの大変さを学んだ。 ・差別に対する考えがたくさん学べて良かったです。 ・1人1人意見が違うということ。 ・ジェンダーやその問題について学び、考えさせられた。今の自分やこれからの自分にも関わっていると思った。 ・ファシリテーターという言葉は初めてきくことだったので、どうなるか不安だったが、こういう授業ではないと学べないので、良かった。 ・ファシリテーターとしての在り方。 ・スライドを進めるのがはやかったです。 ・ファシリをすることで周りの人の意見を聞くことの大切さが分かると思う。 ・社会におけるジェンダーの考え方を学べた。 ・ファシリテーターの重要性、ジェンダーへの気づきを学んだ。 ・ファシリテーターのやり方が使えるなと思いました。 ・ジェンダー問題。 ファシリテータ、ジェンダーについて。 ・もっと教材をしっかりと読み込んでおく必要があった。 ・ファシリテータ。男女共同参画について自分を主体として考えることを学んだ。

総合英語Ⅱ	高橋恵	2014/月1/後期
■Q20 この授業について、良かった点、改善して欲しい点について <u>「もう少し、テストをやさしくしてほしいです。『みんなに単位をとってほしいと思っている』と言うなら、もう少しテストの内容を事前に教えてほしいです」</u> ご意見ありがとうございます。試験を行う前にこのアンケートを実施しましたから、前期の試験の手ごたえから「難しかった」という印象を持ち、このコメントを書いたのかなあとと思いながら読みました。おつかれさまでした。 まず、最初に理解してほしいのは、「試験」というものは、その内容を事前に教えるものを指すのではないということです。レポート課題の場合は、「〇〇について書きなさい」と課題を明示しますが、試験というのは「範囲」は示しても問題内容を示したり、どのようなものが出題されるのか詳しく説明した後で実施されるものではないと少なくとも私は考えています。というのも、内容を仮に伝えれば、その部分しか学生は勉強しないで		

しょう。それでは、後期通じてやってきたことをしっかり身につけたかどうか計れないのです。また、今回の試験範囲は、大学の期末試験としては妥当なもので、範囲を狭めたりする必要があるほどのものでもなかったはずですから、範囲をくまなく見てくることは可能だったと思います。

試験前の授業の中で、試験範囲を説明し、かつ、教科書をみんなでめくりながら「こういうことをしてきましたよね」というレビューの時間を設けました。仮に、わからないところ、自分が書きそびれたところがあった場合などは、そのレビューの時間になんでも質問するように、というお話をしていたと思います。試験対策の1つとして、試験前の貴重な授業時間を無駄にしてはいけないと何度も話しました。教科書を見直し、質問を明らかにして、そのレビューの時間を上手に使い試験に臨むこと、冬休み中に教科書をみておかないと、最後の授業から試験まで1週間しかないのですから大変ですよ、ということも話したと思います。それらを十分にやってもまだ駄目という場合は、もっと基本的な内容に戻って勉強をやり直す必要があります。この点に関しては、自分をシビアに振り返って考えてみてください。

また、「みんなに単位をとってほしい」というのは、換言すれば「白百合女子大学の大学1年生として身につけるべき英語力をみんなにしっかりと身につけてほしい。そして、その力を試験で出し切れるようがんばってほしい」ということです。その力を培うために、授業の中ではたくさんの課題にも頑張って取り組んだはずですよ。そこで育んだ力を、試験という場では、改めて見せてほしいということなのです。「単位は自分でとるもので、教員があげるものではない」という話をしたことを覚えていますか。単位をとることは学生一人一人の努力にかかっている、教員が試験の内容を教えてそこを勉強してもらうことでも、教員が授業のレベルをどんどん下げて、学生に単位を「差し上げる」ものではないと理解してください。試験に対する考えを **Renewal** し、残りの大学生活、自分を養うために勉強に臨んでほしいと思います。今後の成長と飛躍を期待しています。

英語コミュニケーションⅣ	相原 雅子	2014/金Ⅰ/後期
■Q20 この授業について、良かった点、改善して欲しい点について 私意が正確に伝わっていないコメントが1例あった。今後はそのようなことがないよう、さらに配慮していきたい。 好ましいコメントも多かったので、励みにしていきたい。		

児童文学史・日本	宮澤 賢治	2014/水Ⅱ/通年
■Q20 この授業について、良かった点、改善して欲しい点について テストが重すぎる、という学生の為に、普段のレポート、読書、碑紀行館めぐり、夏休みの課題など多岐にわたるポイントを与えています。普段の予習、復習、課外テーマな		

どこなしていれば 70 点はとれると思います。

テストを簡単にしてほしい、という学生には、出題の 1/3 を教えているので普段の授業のうけかたの改善を指導したいと思います。

テキストの誤植については反省しています。2015 年度は改めてゆきます。板書が多いとの意見もありましたので、注意したいと思います。

■Q21 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることについて
真面目な学生はきちっと勉強してくれているということを知り安心しました。

芸術心理学	井口 由子	2014/月Ⅳ/後期
■<u>Q20 映像と板書の重なりについて</u> 中央のスクリーンを出さずに映像と板書が重なって見にくかったとの意見がありました。この点につきましては、板書の内容を見ながら右側のスクリーンで映像を見ていただければと思って行いました。結果的に説明が足らず、映像がだぶってしまい、混乱を引き起こしたかと思いますので今後気を付けます。 ■<u>Q20～22 内容の奥深さと難しさについて</u> 芸術作品のなかに人間像の変遷や心理的な読み取りを行っていくので、興味深い反面難しさがあつたことと思います。時間をかけて、皆さんのなかでこうした視点もあることが理解されるようになれば、それで良いかと思います。今後もわかりやすい題材を選び、興味を持ってもらえるような授業を心がけたいと思います。		

児童文化講義・おもちゃ論	森下 みさ子	2014/火Ⅲ/通年
昨年同様、具体的なおもちゃを取り上げて多面的に分析するやり方は好評で、たくさん励みになる記述をいただきました。が、ここでは今後の改善点につながる以下の記述についてのみお応えします。 ■<u>「おもちゃを見せる時、もう少し上の方で見せてほしいです。」</u> おもちゃの見せ方には、毎回考えさせられます。みなさんに回して触ってもらうのが一番ですが、人数が多いこともあってそれもかなわない場合、あるいは操作して見せたほうが良い場合等、手元で見せるのですが、身長不足もあり見えにくいかもしれません。教室を回って見せる、スクリーンを用いる等工夫したいと思います。 ■<u>「後ろの席で話している人がいて、ちょっと集中できないなと思うときがありました。」</u> たまにはとはいえ、わたしも気になるときがありました。おもちゃですから、みなさんのテンションが上がってざわつくことがあるのは、こちらも反応があつてうれしかったりします。が、関係ないおしゃべりは邪魔になりますね。「コラッ！」とはいえない（タイプではない・・・）ので、上手に注意するようにします。 ■<u>「目立ってはいなかったが、情報がまちがっていることがあつたのが残念。」</u>		

みなさんの方が得意とするゲームの分野で、でしょうか？ 確かに不案内なところがあつたかもしれません。が、誤解もあるかもしれませんし、間違いでしたら訂正もしたいので、毎回書いてもらっているリアクションペーパーに書き込んでいただくか、授業終了後に教えていただければ幸いです。感謝こそすれ、指摘いただいて気を悪くすることは絶対にありません。よろしくお願いします。

発達心理学演習 A	波多江 洋介	2014/月 I /後期
自由記述では以下のような感想をもらいました。この授業はテーマを設定せずに普段思っていることや考えていることを自由に話し合うという授業でしたので(つまり、学生にとっては知らなかった知識が得られるわけでもなく、新しいスキルが習得できるわけでもない授業でしたので)、学生が満足してくれるのかどうか不安に思っていたが、概して満足感が高かったようですので、私としてもほっとしております。また、自分の考えていることや感じていることを他者に伝えるということは、時に苦しかったり辛かったりする営みでもあります。多くの学生が「楽しかった」「面白かった」と書いて下さったので、一つの集団として受容的な雰囲気が形成できたのではないかと感じていますし、そうした雰囲気を作ることに協力して下さった参加者の皆さんに感謝しております。 「誰がどんなことを考えていて、どんな人なのか知ることが好きなので、話し合いをしながら、楽しく出来て良かったです。」 「このような形式の授業は初めてでしたが、人の意見を聞いたりしてどのような感情を抱くかという点では興味深かったです。」 「みんなで雑談形式で話せたのがとても楽しかったです。先生とも距離が近くなった感じがして嬉しかったです！ずっとこの形式の授業を続けてほしいです。」 「こんなにみんなでじっくり話し合える機会はなかなかないので、すごくおもしろかったし、毎週楽しみにしていました。1限だけどつらくなかったです。もう終わってしまうのが残念です。」 「普段の授業とは違う形式だったのでとても楽しかったです。」 「座学の中でも、こうした椅子で囲って人の話を聞くということが、今までないものでしたので、とても新鮮でこの授業はいつも楽しみにしていました。」 「このような形での授業は初めてだったのですごく楽しかったです。最初は戸惑っていたが段々とリラックスできる場所になっていた。」		

発達教育相談 B	波多江 洋介	2014/金 II /後期
■「生徒の発言に対して細かく分かりやすく答えていて解説を行っていてよかった。とても興味のある授業でした。」		

大人数の授業でしたので限界はありましたが、それでも、私としては学生との対話を大切にしていきたいと思っています。単に、心理療法の知識を得たいのであれば、専門書を読めばいくらでも調べることができるわけですから、授業を受けていて学生が疑問に思ったことや不思議に感じたことについて一緒に考えていくような授業にしたいと常々考えています。

■「たくさんの事例を見ることができたのはとても良かったと思います。事例を見てクライアント側が、何を考えているのかを理解していくのが面白かったです。もっと板書を増やして、ノートを見返した時にキーワードや解決までの流れ、要点がわかるといいと思いました。」

「実際に事例をもとに患者の心情や意図を考えるのが楽しかったし勉強になった。改善してほしい点は板書をもっとして欲しい。家でメモなどをみても分からないときがある。」

「質問に答えるという方法で授業を進めていましたが、メモもとりにくいし、板書も少ないしで、見返しても何がポイントだったのかが分かりにくいので、レジュメのようなものがあつたらいいと思った。」

心理療法を学ぶ上で、“事例に接して、心が動かされること”ということがとても大切なのだと私は考えています。たしかに、専門用語の意味を知ることなどの知識を得ることも必要なことではありますが、授業ではそのようなことよりも事例を読んで、クライアントの気持ちを想像したり、クライアントのありようを（知的にではなく、共感的に）理解したりしてもらいたいと思って、あえて板書などは少なくしておりました。皆さんの立場からすると、「そうは言っても、テストに出されたら、答えなくちゃいけない」と思われるかもしれませんが。

■「ふい打ちで発言を求められることが嫌でした。」

突然質問されて嫌だと思うお気持ちも分らなくはありませんが、授業に参加される以上、授業内容について質問される覚悟は参加者として最低限必要なことだと思いますし、常に“自分が質問されるかもしれない”という緊張感をもって授業に臨んで欲しいというのが私の希望です。

■「グループワークをするときのグループ分けがわかりにくく、めんどくさかった。「前後4人で」とかで良いのではないかと思った。」

「グループ分けをするときに、近くの人6人ぐらいでまとまればよいと思います。番号をふる必要はないと思います。(個人に)」

グループの分け方については、「では、6人前後でまとまってください」と指示してグループになってもらうという方法で行っていたこともあったのですが、そうすると時々グループに参加できずに、ぽつりと一人で座っている学生がでてしまうことがありました。たしかに、今のようなグループの分け方は時間もかかりますし、学生の方にとっては面倒くさいと感じられると思うのですが、グループに入りそこなう学生を作らな

いためには致し方ないのかと思っています。

■「質問を大勢の前でしづらいことがあったので、リアクションペーパーを全員に配り、質問や感想を書いてもらい、先生が答えていくという授業にしたらどうでしょう…？時間がかかりすぎますかね…？」

大勢の学生の前では質問をしづらいという意見は他にもありました。次年度はもう少し質問しやすい方法を工夫したいと思っています。

■「生徒に質問を聞くスタイルはよいのですが、質問されている方の声が小さく聞こえないことが多かったので、先生が復唱されるとさらによいと思いました。」

この点もご指摘の通り改善したいと思います。

■「心理療法について具体的な事例などをあげながら説明して頂いたので、とても分かりやすかったです。心理療法は想像力と観察力が必要なのだと感じました。」

心理療法に想像力と観察力が必要、というのはまったくご指摘の通りですし、もしも、私の授業を通してそのように感じて下さったのであれば、私としてもとても嬉しいことです。

子どもの保健ⅠA	内山 有子	2014/月Ⅴ/後期
■Q1 出席について すべて出席した学生が約 30%で、1～2 度欠席が約 42%、3～4 度欠席が約 25%であったが、今年度は私の学会出張や会議等の都合で休講、補講に変更せざるを得ない日があり、申し訳なく思っている。また、実習期間と重なり欠席が多くなってしまった学生がいたことより、今後、実習による欠席者への対応を考えていきたい。 ■Q2 授業以外の学習について 授業以外の学習時間が「全くしていない」学生が約 45%いたことより、今後、明確な予習復習内容を指示していきたいと考える。 また、授業への取り組み、授業内容の習得は「強くそう思う」「どちらかと言えばそう思う」が合計 8 割を超え、また、授業内容についても教科書、資料、板書等を適切という回答が 8 割を超えていることより、適切な進度で授業を行えたのではないかと考える。 しかし、自由記述に「マイクの音量が大きすぎた」「スライドの文字が見えにくかった」との指摘があったので、今後、改善していきたいと思う。		

介護福祉論	川中 信	2014/火Ⅳ/通年
※「介護福祉論」は 2014 年度以前開講科目です。2015 年度からは「介護等体験の事前事後指導」という科目名で開講しています。 介護等体験の事後指導であるこの後期科目は、特別支援学校と福祉施設での日誌「体験		

ノート」のうち、まとめの書き直しが主な内容でした。そのほかにも 1 分間スピーチ練習、口頭発表 2 回、そしてそれぞれについて講評を行いました。学習の成果は「介護等体験を支える私たちの学び 2015」に報告書としてまとめましたが、学生の学びは以下のアンケート結果からもすばらしい成果をあげられたことがうかがえます。皆さんの取り組みと努力、そして以下の自由記述の通り学習に対する深い理解に感謝申し上げます。

■Q3「この授業に主体的に取り組むことができたと思いますか」

4.25。ただし"強くそう思う" 4 人、"どちらかと言えばそう思う" 7 人でした。

■Q19「この授業を履修したことに満足していますか」

4.00

介護等体験の事後指導とはなにか、評価について考えよう。たとえば体験の趣旨に照らした洞察を書けたか点検しよう。特例法は、利用者理解（知的障害者と高齢者の理解）とともに、その社会連帯や支援の実際について、特別支援学校と施設での介護等の体験から理解し、教員の資質や指導力の向上に期待する。これらを洞察ポイントと呼び、学習目標としました。

-----（参考）-----

特別支援学校での介護等体験からの洞察チェックポイント

- (1) 教育の特色を 2 つ以上書けましたか
- (2) 指導とその関わり方を 1 つは書けたか
- (3) 体験(参考)を 2 つ以上書けたか。日常生活の指導、自立活動 6 領域など特色ある用語を書いたか
- (4) 知的発達に遅れのある子どもの理解を 2 つ以上書けたか

遊びなどから社会性の遅れが集団生活を困難にする理解や経験や環境による成長、を書けたか。自閉症児の障害特性や個性を理解する体験、を書けたか。接し方の体験。意思疎通性の困難だけでなく、わかりやすい伝える試行錯誤。環境、場所や物の意味、何をいつどのくらいするか手順や方法を具体的に伝えられたか

高齢者施設での介護等体験からの洞察チェックポイント

このような法律上の施設であることがわかった。介護保険、通所介護、入所施設等の目的

入所施設ではユニットケア、自立度の意義

具体的プログラム、話し相手、レク、リハビリ体操には、こんな意義が感じられた

あるお年寄りの方から、こんな人生を学んだ

障害者施設での介護等体験からの洞察チェックポイント

このような法律上の施設であることがわかった。就労継続支援、日中生活支援・生活介護等の目的

障がい者が働くこと、具体的プログラム、レクには、こんな意義が感じられた

こんな支援や、個別支援の事例を学んだ

-----（以上、施設理解と利用者・子ども理解の解説）-----

以上のような施設理解と利用者・子ども理解のどちらをより学んだか(洞察できたか)という問いとあわせて、事後指導の理解そのものについてもお尋ねしました。発表がおもしろいかどうかといった体験の偶然性に頼った指導であった数年前に比べて、皆さんの事

後指導に対する理解が格段に深くなってきていることがわかりました。これも授業アンケートを繰り返してきたことと授業改善がかみ合った好事例かと思います。特に、文章の添削指導や、人前でスピーチする練習や体験に基づいた意見を伝える練習を繰り返したので、そうした技能面での習得に関心が高かったかどうか、以下の自由記述に反映されていると思います。改めて、皆さんの自由記述を重視したアンケートへのご協力に感謝いたします。

■Q20.この授業について、良かった点、改善してほしい点

＜以下、履修学生の理解を得てすべての自由記述を掲載します＞

- ・事後指導は意味があったと思います。正直はじめは体験後の授業なんて何をやるんだろうと思っていましたが、体験したあとにそれを振り返ってまとめていく時間はもう一度自分の中で整理することができたと、重要だったと思いました。
- ・事後指導は必要であると考え。自分の言葉でそのまま書いたレポートをさらに分かりやすく相手に伝えるため書き直したことで自分の中でも整理することができた。また、正しい書き方も学ぶことが出来た。一分スピーチではなかなか自分が思う通りにまとまって話すことが出来なかったのもう少し時間がほしいと感じた。
- ・体験のレポートを何度も書き直し大変ではあったが、1回目と最終のレポートの質は自分でも驚くほど違い、考えをしっかりとめられたレポートができて本当に良かった。介護体験は大変だったが、今後、このレポートを見直して頑張っていきたい。
- ・事後授業は、正直最初意味あるのかと、思っていたが、うけるにつれて自分の文のあまみやだめさを痛感できた。この授業を通して、介護体験で実際に感じ学んだ事だけでなく、それを伝える力、自分の中でまとめる考える力が身についたと思う。伝えるという事が苦手な私は、すごくつらい時もあったが、前よりも少しは成長する事ができたと思うし、口頭発表も経験できて良かった。この授業とれてよかった。
- ・事後指導はとても丁寧でよかったが、もう少し事前指導の時にも、どのようなことに着目して体験してくればよいのか、レポートの書き方などを指示してくれたら、よりよい体験、レポートがかけたと思う。
- ・PP(スクリーン)使うよりプリントを配られた方が分かりやすかったかもしれません
- ・教職について考えるだけでなく就活にも役立つようなスピーチの仕方、みんなの前で話すことの難しさや大切さを学べてよかった。
- ・事後指導があったおかげで自分の文章の問題などを知ることができました。大学生になってから、文に指導を入れてもらえることなど無いので、とても自分の為になったと思います。
- ・事後指導が私はあって良かったと思う。自分の体験を2回書き直すことによってじっくりと自分の体験と向き合うことができ、深く考えることができたと思った。また、発表も私は苦手なのであまりやりたくはないのですが、これから先、人前で話すことも多々あると思うので、発表指導の経験は自分のためになったのではないと思った。できればもう少し考えをまとめる時間があればよかったと思った。
- ・事後指導は、文章のまとめを1分でまとめたり、自分の伝えたいことを目をみてきちんとつたえたり、これから絶対に必要になってくることばかりでとても勉強になった。書き直しは、パソコンを探しに行くとパソコンの場所がうまっていって使えないことなどがあったのでパソコン教室を借ると便利だと思った。

- ・介護等体験のレポートが完成したから、さあ読んで発表しなさいではなく隣の人と自分について発表しあったりして、最後は皆の前で授業内でレポートする…と何度も訓練を重ねていく点がよかった。
- ・事後指導について：文字に書きおこし、更に書き直しをすることで、人に「読ませる」ことのできる文章の書き方、表現の仕方を学べると同時に、自分が得た体験・経験を見つめ直し、分析することができるので、かなり有意義だったと思います。一瞬「社会に出た時に役立つ書き方・スピーチ方法」という表現の手段に目がいってしまい、介護体験の意義を見失いかけていましたが「体験した中で本当に伝えたいことを表現する」ということが大切だとハッキリ分かってからは、事後指導の趣旨がしっかり見えた気がします。
- ・事後指導の書き直しは、実習直後に思ったこと以外にも、あとから考えさせられたことなども改めて自分の中でも整理出来てよかった。
- ・勉強になることが多かったので事後指導も大切だなと思った。続けてほしいと思う。
- ・始めは、なぜ施設に行く前の前期だけでなく、後期もあるのだろうか？と思っていた。しかし、今こうしてふり返ってみると、体験して終わりではなく、ふり返ることによって、介護等体験の目的を理解することができたこと。それを人に伝える練習を通して、伝える方法の勉強ができてよかった。

■Q21.この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していること

＜以下、履修学生の了解を得てすべての自由記述を掲載します＞

- ・何度も日志の書き直しをしたり、みんなの前で話したりして文章が上手くなったと思うし自信がついた。

介護福祉論	川中 信	2014/火V/通年
※「介護福祉論」は 2014 年度以前開講科目です。2015 年度からは「介護等体験の事前事後指導」という科目名で開講しています。 介護等体験の事後指導であるこの後期科目は、特別支援学校と福祉施設での日誌「体験ノート」のうち、まとめの書き直しが主な内容でした。そのほかにも 1 分間スピーチ練習、口頭発表 2 回、そしてそれぞれについて講評を行いました。学習の成果は「介護等体験を支える私たちの学び 2015」に報告書としてまとめましたが、学生の学びは以下のアンケート結果からも素晴らしい成果をあげられたことがうかがえます。皆さんの取り組みと努力、そして以下の自由記述の通り学習に対する深い理解に感謝申し上げます。 ■Q3「この授業に主体的に取り組むことができたと思いますか」 4.56。ただし"強くそう思う" 5 人、"どちらかと言えばそう思う"4 人でした。ほか回答 0 ■Q19「この授業を履修したことに満足していますか」 4.22 介護等体験の事後指導とはなにか、評価について考えよう。たとえば体験の趣旨に照らした洞察を書けたか点検しよう。特例法は、利用者理解（知的障害者と高齢者の理解）とともに、その社会連帯や支援の実際について、特別支援学校と施設での介護等の体験から理解し、教員の資質や指導力の向上に期待する。これらを洞察ポイントと呼び、学習目標としました。		

------(参考)-----

特別支援学校での介護等体験からの洞察チェックポイント

- (1) 教育の特色を 2 つ以上書けましたか
- (2) 指導とその関わり方を 1 つは書けたか
- (3) 体験(参考)を 2 つ以上書けたか。日常生活の指導、自立活動 6 領域など特色ある用語を書いたか
- (4) 知的発達に遅れのある子どもの理解を 2 つ以上書けたか

遊びなどから社会性の遅れが集団生活を困難にする理解や経験や環境による成長、を書けたか。自閉症児の障害特性や個性を理解する体験、を書けたか。接し方の体験。意思疎通性の困難だけでなく、わかりやすい伝える試行錯誤。環境、場所や物の意味、何をいつどのくらいするか手順や方法を具体的に伝えられたか

高齢者施設での介護等体験からの洞察チェックポイント

このような法律上の施設であることがわかった。介護保険、通所介護、入所施設等の目的

入所施設ではユニットケア、自立度の意義

具体的プログラム、話し相手、レク、リハビリ体操には、こんな意義が感じられた

あるお年寄りの方から、こんな人生を学んだ

障害者施設での介護等体験からの洞察チェックポイント

このような法律上の施設であることがわかった。就労継続支援、日中生活支援・生活介護等の目的

障がい者が働くこと、具体的プログラム、レクには、こんな意義が感じられた

こんな支援や、個別支援の事例を学んだ

------(以上、施設理解と利用者・子ども理解の解説)-----

以上のような施設理解と利用者・子ども理解のどちらをより学んだか(洞察できたか)という問いとあわせて、事後指導の理解そのものについてもお尋ねしました。発表がおもしろいかどうかといった体験の偶然性に頼った指導であった数年前に比べて、皆さんの事後指導に対する理解が格段に深くなってきていることがわかりました。これも授業アンケートを繰り返してきたことと授業改善がかみ合った好事例かと思います。特に、文章の添削指導や、人前でスピーチする練習や体験に基づいた意見を伝える練習を繰り返したので、そうした技能面での習得に関心が高かったかどうか、以下の自由記述に反映されていると思います。改めて、皆さんの自由記述を重視したアンケートへのご協力に感謝いたします。

■Q20.この授業について、良かった点、改善してほしい点

＜以下、履修学生の理解を得てすべての自由記述を掲載します＞

- ・①多くの利用者に関わることが出来、報告書の一人一人の利用者との会話を再現することも出来たから利用者理解の方が十分に深まった。②特別支援学校が主に何を行っているのか(時間割)を知ることが出来て教育の特色を理解出来た。③他の人が施設でどういった体験をしたのか知ることが出来てよかったと思う。
- ・施設理解がよりよくできたと思う。利用者も理解できたが、対応が難しい場面もあったため…。特別支援を理解できた。障害を持っている子たちならではの教育法を学べたと思うから。1 分間スピーチをする理

由がよくわからなかった。あまりにも短時間すぎて内容をまとめることにばかり気がいってしまった。 ・福祉においては利用者理解、特別支援においては子ども理解が印象に残った。1 分間スピーチは、最終レポートの抜粋だったので、同じ話を何度も聞かされて少し飽きを感じた。最終発表では各自の体験内容や、それについてどう思ったかを聴けたのでおもしろかった。特別支援の発表も聴いてみたいと思った。 ・利用者理解と高齢者理解どちら？…どちらも必要でした。一分間スピーチ（事後指導について）…皆がどんな体験をして、どのようにまとめたか知る良い機会でした。・特別支援と教育の特色どちら？…教育の特色の方が私は理解しやすかったです。 ・①高齢者 or 施設理解…私は、高齢者の方との関わりを通して施設の特色を感じることが多かったのですが、施設見学なども含め、施設理解のほうをより学びました。②子ども理解 or 教育の特色…特別支援学校では、子どもたちと関わり、心を通わすことに必死だったため、子ども理解をより学びました。③（1 分）発表（事後指導）…1 分スピーチや発表は、他の人の体験と自分の体験を重ね合わせることができ、勉強になりました。発表する側になった際の指導が分かりやすかったです。 ・福祉：利用者理解の方が自分が学びたいポイントであったが、利用者理解にはまだまだ難しそうな点があるので施設理解の方がより学べた。特別支援：教育の特色の方がより学ぶことができた。 ・私は利用者理解の方が印象深かった。教職として勉強しているという点で施設理解も大切かもしれないが、利用者の状況をしり、どう対応していくのかを見た方がいいと思ったためだ。また、発表方法についてはなぜ2 回やるのかと疑問に思った部分があった。他の人の体験談を聞くのは興味深かったが2 回も発表があると何の授業なのかわからなくなった。 ・利用者理解と施設理解のどちらが印象に残ったか？…施設理解。特別支援子どもの理解施設理解のどちらが印象に残ったか？…子どもの理解。みんなの発表を聞きどのような体験をみんながしたかを知れたので発表は続けてほしい。 ・P o i n t 1 利用者・施設理解→どっちが学べたか（印象）、特支・教育・施、1 分間スピーチ・レポート（事後指導）。老人の方も特支も利用者の方と多く関わることが多かったため、利用者理解の方をどちらかというと多く学べたと思う。事後指導では、大変だな等思うこともあったが他7 人の体験の話も聞くことが出来、よかった。
--

図書館情報技術論	今井 福司	2014/月1/後期
■Q15 この授業の難易度について 理解するのに多大な努力を要したと言う方が多かったようです。これは当該科目の内容が他の授業では扱っていない内容が多いこと、また、敢えて教える範囲そのものは「簡単にするために切り捨てる」ことはしていないことが要因だと思われます。おそらく来年度以降も同様の難易度で進めていく予定ですが、逐一理解をしているかを復習する機会を設けるなどしていきたいと考えています。 ■Q20 この授業について、良かった点、改善して欲しい点 「課題の提出期限が間違っていたのを補足仕切れていない箇所があった」について：ご指摘の通りで、大変なご迷惑をおかけしたことをお詫び申しあげます。今年に関して		

は締め切り経過後も提出ができるようにして随時対応いたしました。最初から正規の締め切りを教えておけば何ら問題はなかったわけですので、来年度は十分注意したいと思います。

「質問しても、質問する学生の人数が多かったためか、教員が解決を急いで自分が理解できない場面もあった」について：特に Web ページ作成演習の時に、その傾向が強かったと反省しています。説明資料や参考する資料が十分に用意できていないことが原因であることが多かったと判断しておりますので、来年度は各自で参考にできる資料を充実して参りたいと思います。

「人数が多かったのも、少し質問とかヘルプがしにくかった」について：質問者ごとに回数を決めておく（インシデント制）方法や、質問フォームをつくって解決した記録を共有できるようにするなど、限られた時間で全員が質問できたり、内容を共有できるように、進捗を工夫して参りたいと思います。

■Q22 教員からの指定質問「この授業でもっと深めたかった内容について回答して下さい」

「Web ページについてももっとじっくり取り組みたかった」について：この意見が大変多く散見されました。実は回数については昨年度より増やしているのですが、もう少し短期集中型で取り組めるようスケジュール等の管理に努めて参りたいと思います。

図書館情報技術論	今井 福司	2014/月Ⅱ/後期
■Q15 この授業の難易度について		
理解するのに多大な努力を要したと言う方が多かったようです。これは当該科目の内容が他の授業では扱っていない内容が多いこと、また敢えて、教える範囲そのものは「簡単にするために切り捨てる」ことはしていないことが要因だと思われます。来年度以降も同様の難易度で進めていく予定ですが、逐一理解をしているかを復習する機会を設けるなどしていきたいと考えています。		
■Q20 この授業について、良かった点、改善して欲しい点		
「HP を作る時のやり方の説明が全く分からない人間にはさっぱりだった。ちょっと教えたら後は自分でという感じで放り出された感じがした」について：ここは、大変悩んでいるところです。PC 操作に慣れた方にとってはなるべく各自でアレンジできるように作業時間を多く取るのが望ましいですし、1 から操作方法を身につけなければならない人にとっては、作業時間よりも操作説明に時間を割いた方が良いと言うことになります。このあたりのバランスについては、試行錯誤しておりますが、少なくとも放り出された感じがしたというような印象が持たれないよう、説明等が工夫できないかどうかは検討して参りたいと思います。また、Web ページについてもタグを1 から書いていただいている段階ですが、もう少しヘルパーアプリケーションを介して、操作を省略できるようにできないか、工夫して参りたいと思います。		

■Q22 教員からの指定質問「この授業でもっと深めたかった内容について回答して下さい」

「CSS の記載内容がどのように反映されているのか分かるように、授業の中で教えて欲しかった」について：これは工夫やアレンジの内容になるので、全員には要求していない内容でしたが、確かにできるとできないではデザイン性に大きな差が出てくることは確かです。もう少し事例などをきちんと紹介できないかどうか、準備をしておきたいと思います。

情報資源組織論

今井 福司

2014/火V/後期

■Q20 この授業について、良かった点、改善して欲しい点

「先生の余談が多すぎて、内容を慌てて進めることがあったので、やめてほしいです」について：ご指摘有り難うございます。今回に関しては、実は本編の方で内容を深めすぎている箇所がありました。このあたりは精選しつつ、かつ理解を阻害するような余談については、極力避けるよう工夫して参りたいと思います。他の方の意見を拝見する限り、おそらく余談は授業の最初にまとめて展開することが好ましく、内容を展開しているときには最小限とすることが好ましいのではないかと考えています。

「突発的な？企画が面白く、もっと勉強しようという気持ちになれた」について：毎年、少しずつマイナーバージョンアップを図っていますので、このように反応を頂けると大変嬉しいです。

「テストが大変でした」について：残念ながら、この授業は内容そのものについては、それほど削れない授業です。試験範囲プリントの早期配布や、コメントシート返しなどで補っておりますが、受講生の学生さん皆様におかれましても、大学からの帰り道や、授業開始前の休み時間中など、少しずつでも思い出す機会を多く設けていただくと、よりよい結果となるかと思しますので、ご協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

「テストに関する問題の質問は気軽に研究室に伺っても良いようにしても良いかなと思いました」について：何が出題されるのかについてはお断りしていましたが、内容そのものをもう一度聞き直すのは実は Welcome にしていました。ただし、それが十分に伝わっていなかったようなので、その辺は何とかしたいと思います。

■Q22 教員からの指定質問「この授業でもっと深めたかった内容について回答して下さい」

「(全般的な傾向について)」：非常に幅広くなトピックを挙げていただき有り難うございます。私の方でも逐一、情報をアップデートして対応したいと思います。

「FRBR が何となく分かったけれど、ぼんやりした状態だったので、もう少し詳しく説明して欲しかった」について：これは、もう少し授業時間を取って説明したいと思いますが、教員自身の研究不足な箇所でもありますので、来年度はもう少し準備をきちん

として臨みたいと思います。

「復習プリントをもっと授業時間で取り上げて欲しかった」について：過去、取り上げすぎて試験範囲をほぼ教えてしまったときがあり、そこまでマジメにやってきた学生さんにとって不公平な状況を生じさせてしまったことがあったので、あの時間以上は設けないようにしています。ただ、個人的なサポートはもう少し応じられるよう機会を設けたいとは考えています。

「レファレンスは知恵袋で良いか」について：司書が分野に対する専門性を維持できないなら（私は学んでいないのでこの内容は分からないという対応を取るなら）、知恵袋で十分だと言われても仕方ないと考えますし、こういう意見を言う方の中には、過去にそうした対応を受けた経験を念頭に置いていらっしゃる方もいると考えます。本来提供できるはずのサービスをきちんと提供できていれば、差異化は図れると思っていますが、いかげんにやっていれば当然このような批判は出てきて当然だと考えます。

情報資源組織演習（目録）	今井 福司	2014／水Ⅲ／後期
■<u>Q20 この授業について、良かった点、改善して欲しい点</u> 「<u>回答の見本が欲しかった</u>」について：今回、教科書の改訂や目録を取る資料の入れ替えを行ったため、見本の準備が間に合わないところがありました。深くお詫び申しあげますとともに、同様の状況が起こらないよう十分に注意したいと思います。おそらく、回答が終わったら終わりという形では無く、回答を終えた後にお手本と見比べられる時間があれば一番良いのだろーと思いますので、そのようなやり方ができないかどうか、検討をして参りたいと思います。 「<u>学生への対応に差があったように感じた</u>」について：特にこの時間帯においてはそのような状況が生じた可能性が高いと思っていました。ご指摘有り難うございます。クラスサイズとも関連してくるところですが、教員側の責任であることには間違いありませんので、再度繰り返さないよう配慮して参ります。 ■<u>Q22 教員からの指定質問「この授業でもっと深めたかった内容について回答して下さい」</u> 「<u>しばらくの間、PC から内容を写しているだけに思ってしまった</u>」について：この点は、割と多く出てきたところで、今やっているやり方の限界ではないかと思っています。最初から入力フォームを使わずに、1 から記号も含めて打ち込んでもらっているのは、仕組みを理解するためというのが大きいのですが、実際の現場では区切り記号が使われることは希になりつつあるわけですから、例えば、ピリオドスペースダッシュスペースといった記号は改行で良いとする別法を使う、ある程度授業が進んできたら入力欄が配置されているフォームを使うなど、何かしらの工夫が必要だと考えています。ご指摘有り難うございました。		

情報資源組織演習（目録）	今井 福司	2014／水Ⅳ／後期
■Q20 この授業について、良かった点、改善して欲しい点 「回答の見本が欲しかった」について：今回、教科書の改訂や目録を取る資料の入れ替えを行ったため、見本の準備が間に合わないところがありました。深くお詫び申し上げますとともに、同様の状況が起こらないよう十分に注意したいと思います。おそらく、回答が終わったら終わりという形では無く、回答を終えた後にお手本と見比べられる時間があれば一番良いのだと思いますので、そのようなやり方ができないかどうか、検討をして参りたいと思います。 「板書がもっとあると良い」について：プリントに頼りすぎていた回がだいぶ長く続いた印象があります。板書計画をしっかりと練って対応したいと思います。 「休んだ回のフォロー」について：ここは悩んでいるところです。少なくとも演習の解答だけは何とかしたいのですが…。あとはヘルプ質問を記載する用のシートでも作らしましょうか…。 ■Q22 教員からの指定質問「この授業でもっと深めたかった内容について回答して下さい」 「しばらくの間、PC から内容を写しているだけに思ってしまった」について：この点は、割と多く出てきたところで、今やっているやり方の限界ではないかと思っています。最初から入力フォームを使わずに、1 から記号も含めて打ち込んでもらっているのは、仕組みを理解するためというのが大きいのですが、実際の現場では区切り記号が使われることは希になりつつあるわけですから、例えば、ピリオドスペースダッシュスペースといった記号は改行で良いとする別法を使う、ある程度授業が進んできたら入力欄が配置されているフォームを使うなど、何かしらの工夫が必要だと考えています。ご指摘有り難うございました。		

情報資源組織演習（目録）	今井 福司	2014／水Ⅴ／後期
人数が少ないこともあって満足していただけたようです。ただ、個人的な反省としては3 コマ連続の最後のコマでしたので、私自身の集中力が落ちてご迷惑をおかけしたことがあったのではないかと反省しております。		

② 大学院科目 授業担当教員からのメッセージ

児童文学演習B	宮澤 賢治	2014/水Ⅲ/通年
■<u>Q20 この授業について、良かった点、改善して欲しい点について</u> 授業が現場（小学校など）で役立っていることを知りました。 ■<u>Q21 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることについて</u> 院生は修論の為欠席が多い方もいましたが、授業はきっかけを与えるものだとということで、自分で考える習慣をつけて頂く機会になったと思います。		

児童文化特殊研究A 児童文化特殊講義A	森下 みさ子	2014/金Ⅳ/通年
大学院の授業にしては大人数だったので、毎回プリントを用意して講義しましたが、ゼミ形式の多い科目のなかで、どう受け取られていたか気になっていました。結果、好評で、なかでも以下の自由記述は心に残りました。 ■「<u>学んだことが多すぎて書ききれません。勉強になることばかりで、人生で最も楽しい授業でした。</u>」 「人生」なんて大げさな・・・と思いましたが、うれしいという以上に感じたのは、やがて卒業していく受講生にとっては、授業はその時に受ける一回限りの体験であるということです。「例年のごとく」授業を準備する段階で、慣れが手抜きになってしまうことがないと言い切れないので、はっとさせられました。		

臨床心理学特論	波多江 洋介	2014/金Ⅰ/通年
■「<u>バウムテストや箱庭について、教科書にとらわれすぎずに、自分が感じたことを大切に解釈を行っていくということを学ぶことができとても勉強になりました。</u>」 「<u>1つのものをじっくり見ていくことで、自分の中にいろいろな感情がわき上がってくると感じ、パッと見たときの印象と共に、じっくり見ることの大切さを学びました。また、みなで話し合うことで、いろいろな見方があるのだなと分かり、面白かったです。</u>」 「<u>この授業では、既存の知識や技能よりはむしろ学生の私たちの意見や感じたことを大切にしていただけだったので、そこが良かったと思いますし、実際に解釈するときもセラピストの感じたことを尊重するのも意義があるとわかりました。</u>」 描かれた描画を理解していくうえで、専門書に書かれている解釈をそのまま鵜呑みにするのではなく、絵を見た時に自分の中に生じてくる感情や感覚やイメージに照らして、そうした解釈が本当にその描画に当てはまるのかということを再度検討することが大切なのだと私は考えています。そうした作業は時間もかかりますし、心理的なエネルギーも必要ですが、臨床家としては必要不可欠な営みだと思いますし、そうした態度が皆さんに		

伝わったとすれば私としては嬉しいことです。

■「課題の本について、自分ではまず選ばない本が多く含まれ、読むのが苦痛な本もありましたが、そんな中にも必ず発見があったので結果的にはよい経験であったと思います。」

「課題のブックレポートも、終わった今思えば、色々な考え方やユング派の方針（？）が学べたので、これからは自主的に本を読んでいきたいと思いました。」

大量の課題でしたし、ご不満もあったでしょうが（笑）、大学院生の間に普段学ぶことの少ない理論について時間を取ってゆっくり考えてもらいたいと思っております。

■「様々な技法について知ることができて良かったです。色々な症例をみることで勉強になりました。ただ、投影法は解釈する人によって、違うというのが特徴的であり、むずかしい面でもあるな、と思いました。」

「箱庭という曖昧な表出に対して、授業開始前はどのような解釈をすべきなのか疑問であった。しかし、箱庭には絶対的な解釈は存在せず、それはクライアントの言語化されない心的世界を表わしているものである。セラピストは箱庭を読みとろうとすることで、面接が深まっていくのだろうと感じた。」

投影法の解釈は、絶対的な正解ありませんし、絶対的な不正解也没有なので、そうした不確実さに向き合っていく（あるいは、抱えていく）ことが求められます。高校まで受けた教育の中では、通常“正解”があり、そうした正解に効率的にたどり着く方が好ましいとされてきたと思いますが、臨床家として活動するためには、そうした価値観とは異なる価値観も身に着ける必要があるのだと私は感じています。

■「学生に実際に検査をとってフィードバックすることで今後の実践に向けてかなり勉強になった。」

検査をどのようにフィードバックするのかということは、検査をどのように理解するのかということとは別次元の難しさがあると思いますし、そうした難しさは実際に体験してみないと分かりにくいものだと考えています。振り返ってみて、フィードバックの方法などについてあまり授業で検討することができなかったのはこの授業の反省点ですし、それは次年度以降の授業に活かしていきたいと思っています。

③ FD 推進委員会からのメッセージ

「授業改善のための学生アンケート」をはじめ、よりよい学びについて考える様々な機会を提供していく役割を担っているのがFD 推進委員会です。FD 推進委員会からは、アンケートそのものの適切性についての設問（Q23）で寄せられた学生のみなさんの声に応えます。また、アンケート結果からみられる全学的な傾向を踏まえて、みなさんへよりよい学びのためのメッセージをとどけます。

「Q23① この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だと思いますか。」に対する回答は、以下のとおりでした。

「はい」	12,650 件	79%
「いいえ」	287 件	2%
「無回答」	3,027 件	19%

「Q23②（Q23①で「いいえ」と答えた人のみ）欠けている項目、不適切な項目などを、具体的に記述してください。」に対して、次のようなコメントが寄せられました。

アンケートについてのコメント 1

実習や制作の授業には、このアンケートは不向きだと思います。（6 件）

全学統一フォームでアンケートを実施していることから、実際の授業形態と質問項目がそぐわないことがあるというご指摘だと受け止めています。このアンケートを開始するにあたり様々な方法を検討しましたが、あえて同じ物差しで本学のすべての授業を振り返ることも重要であるとの見解から、全学統一フォームで実施することになりました。データを集計・分析したりグラフにして全学的な傾向をみなさんにご報告できるのも統一フォームだからこそです。ただし、授業形態は授業の数だけあるといっても過言ではありません。その授業にはふさわしくない設問があり、担当教員から回答不要と指示された場合には、該当の設問にかぎり未回答（マークをしない）ということも可能です。各授業担当教員の指示に従ってください。

一方で、貴重な授業時間を割いてのアンケートですから、みなさんの声も参考にしながら、アンケートそのものの改善についても考えていく必要があるでしょう。よりよい授業のためにさらに効果的な設問や実施方法について、FD 推進委員会でも引き続き検討してまいります。

アンケートについてのコメント 2

複数教員で担当している授業の場合、アンケートが 1 枚だと回答が難しい。(3 件)

このような場合には、アンケート実施中でも構いませんので、どの範囲で回答すべきか、または、回答しづらいと思っていることを具体的に教員へ質問し、指示に従ってください。複数教員が担当する授業では、小グループに分かれて行う場合やリレー形式で教員が交替で行う場合など、授業形態によっては確かに回答が難しいケースもあるかもしれません。これらのケースでは、授業によって担当教員毎にアンケートを実施している場合と授業全体についてたずねる目的からあえて授業で 1 つのアンケートを実施している場合とがあります。後者の場合、回答にふさわしくない設問に限り未回答のままでよいとの指示がある場合もあるかもしれません。このアンケートがその授業に関わる先生方、学生の皆さんにとって有効であることが大切ですから、回答方法で不明な点があればどうぞ遠慮なく質問してください。

アンケートについてのコメント 3

アンケートをしても全く改善されない。(1 件)

お感じになった「改善されない」内容は、カリキュラム、授業計画、授業力、指導力、教材といった内容やソフト面でしょうか、教室環境等のハード面の改善でしょうか。抽象的な表現になりますが、改善されたほうがよいものが改められずにいるのであれば残念なことですし、また、改善される類のものではない内容が授業に参加するみなさんに理解されていないのであればそれも残念なことに思われます。本学では「よりよい学びのための懇話会」も開催されています。このような機会も活用しながら、よりよい学びとは何か、今一度一緒に考えてみましょう。

「Q18 必要な資料は研究室・図書館などに備えられていましたか。」の集計結果 (p. 8) から考えてみました。

「強くそう思う」	21.4%
「どちらかと言えばそう思う」	33.0%
「どちらとも言えない」	41.5%
「どちらかと言えばそう思わない」	1.9%
「全くそう思わない」	0.8%
「非該当」	1.5%

「どちらとも言えない」が全体の 41.5%を占めていることに注目しました。該当の授業では教科書以外の資料の使用を求められなかったから…という理由で「どちらとも言えない」を選択された方も案外多かったのではないのでしょうか。みなさんは、授業の中で「それって…」とふと気になる事柄があった場合、そのこととどのように向き合っているのでしょうか。先生に質問する、友達に尋ねる、スマートフォンで検索するなど、いろいろなアプローチの方法があるかもしれません。研究室や図書館に足を運んで、実際に資料を手にとってみるという方法もあるでしょう。大学には授業の行われている教室の外にも学びの場がたくさんあります。さらに言えば大学の外にも学びの機会は限りなくあるでしょう。みなさんの目で、耳で、手で、足で、ふと気になることの手掛かりを探しに出かけてみませんか。その結果思ってもみない世界が広がることもあるでしょう。ご自身の興味や世界をどうぞ存分に広げ、深めていってください。